

利用者の制限等がない自由度を高めた学修空間の整備

池袋キャンパス メーザー・ラーニング・commons



コーヒーを飲みながら統計について学ぶ、ランチタイムガイダンスの様子(左)、目的や人数に応じて自由に選択できるよう、様々な形状のスペースに様々な什器や ICT 設備を配置(右上)、屋外テラススペース(右下)

【ポイント】

学内外に開かれた 学び・交流活動を促す自由な空間

誰もが自由に活動できる館内

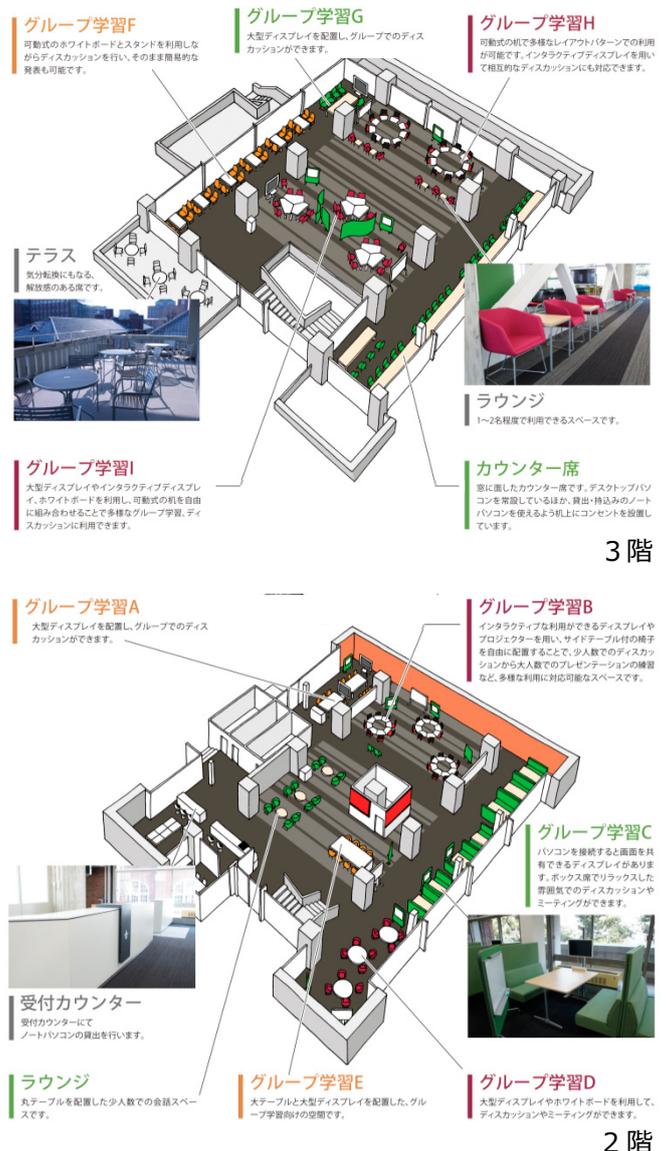
- 正門、東門からほど近い大学の導入部に位置し、学内外の利用者がアクセスしやすい立地。
- 一人でもグループでも好きな場所で作業ができ、様々な学び・交流活動が可能となるよう、様々な形状のスペースに可動式の什器と無線 LAN を完備。

多様な活動を可能にする利用ルール

- 先行して整備された図書館内のラーニング・commonsと異なり、ゼミや授業の発表準備だけでなく、サークル等の正課外活動、就職活動の準備等、様々な学び・交流活動が可能。
- 卒業生や他大学の学生との学修・交流活動でも利用が可能となるよう、学生証による入退館管理は行わない。
- 長時間滞在も想定し館内全域の飲食を許可し、椅子は防汚・撥水性能を有するものを配置。

つながりが感じられる空間構成

- 階段周りの吹抜により2つのフロアに一体感を与え、活動の様子が伝わる。
- 耐震補強は鉄骨ブレース方式で、緩やかにエリアを分けると共にフロアで活動するお互いの様子に刺激を受ける。



整備による効果

能動的学修の裾野拡大

- 経営学部を中心にプロジェクト型の科目が増加しており、本施設整備後は、授業外学修が活発化し、能動的学修に取り組む学生の裾野が広がった。

卒業生や他大学の学生を交えた 多様な学修の活性化

- 利用の制限を外し正課外の活動も認めているため、ゼミでの卒業生による指導や、就職活動の準備活動、サークル活動等、多様な学修活動の活性化がみられる。

ITリテラシー、 メディアリテラシーの向上

- 能動的学修活動を進める中で、ICT設備を活用し、学生のITリテラシー、メディアリテラシー向上が期待される。



英語会（E.S.S.）に所属する学生がスピーチコンテストに向け、先輩が後輩のスピーチにアドバイスしている様子

整備の背景・目的

- 2016年度よりスタートする「学士課程統合カリキュラム」を見据え、学生の主体的な学びを促し学修時間を確保することを重視。
- 設置の検討を開始した2013年頃、学内でグループワークのための場所が不足しており拡充が求められていた。
- 旧図書館本館（メーザーライブラリー記念館新館2階3階）の改修に際し、学生が創造的・能動的に学修できる場所としてメーザー・ラーニング・コモンズを整備。



2階エントランスにつながるテラスから見た外観

更なる展開

学生ニーズに応じ少人数用に スペースを細分化

- 20人程度まで利用できるスペースに対し、少人数での利用が多い。施設を効率的に運用するため、スペースを細分化して利用できるよう、検討を進めている。

学修支援スタッフの拡充

- 効果的な学修のために、インタラクティブディスプレイ等の活用が課題。学修支援スタッフを拡充し、啓発活動を展開することが望まれる。